

みんなのた場

サークル仲間

雄勝が造船・出帆地？ ロマンあふれる探究

サン・ファン研究会

慶長18年(1613年)に海を渡った「サン・ファン・パウティスタ号」の造船・出帆の地「つきのうら」が「実は雄勝である」という歴史を探究するロマンあふれる研究会です。

代表である遠藤光行さん(69)は、雄勝には「呉壺で造船された」との口伝があること、アンジェリス神父の地図では「つきのうら」は「女川町出島付近」であることなどをもとに「造船・出帆



歴史のロマンを語る会員ら

の地は雄勝である」と考証した冊子を作り平成27年秋に発刊しました。

その冊子がきっかけとなり、造船・出帆の謎をもっと探究していきたいという仲間が集まり、平成28年2月「サン・ファン探検隊」というサークルが発足しました。その後、サークル名を「サン・ファン研究会」に改め、不定期で活動しています。

サン・ファン・パウティスタ号の建造・出帆の地にあつては、研究者の間でも見解が分かれるところですが、この研究会では、これまでに研究者が取り上げてきた数々の史料を再検証し、出帆当時の「つきのうら」はどこだったのかなどを地道に調査・研究をしています。最近行った研究会では、明治33年の日付で第10代小野田元熙宮城県知事の名前で「出帆の地である陸前雄勝」と刻まれた硯について検証しました。この硯は、平成2年に仙台の古物屋で発見され、雄勝硯伝統産業会館に展示されていたものです。研究会では、会員それぞれが調べた史料などを持ち寄り、検証しながら情報を共有しているとのこと。

会員は、現在19名で年齢も20代から90代とさまざま、雄勝出身の会員はもちろんのこと仙台から参加している会員もいます。

遠藤さんは「津波で離散した人たちが、ふるさとに縁のあるサン・ファンの歴史を学ぶという共通の目的でつながる場があることはうれしいこと。興味のある方も含めて皆で真の『つきのうら』を追究していきたいものです」と語っています。

文化財たんぽう 106

戊辰戦争と齋藤氏

有房が金壹万両を献金

生涯学習課

新たに寄贈された資料

ます。

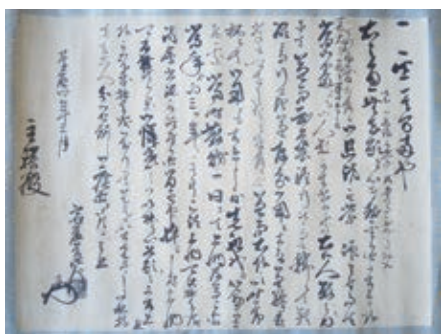
に、国指定名勝・齋藤氏庭園(前谷地)に住んでいた齋藤家第八代当主・齋藤善次右衛門有房に関するものが4点あります。江戸時代の齋藤家は永代大肝入格の家格を持つとともに、飢饉の救済事業の功により郷士格と知行を獲得し、武士同然の待遇を得ていました。その八代目が有房です。寄贈資料のうち3点は、市指定文化財旧観慶丸商店の2階で開催している企画展「戊辰戦争と石巻」(4月8日まで)で展示しています。今回は戊辰戦争に出兵した有房について紹介したいと思

ます。慶応4年(1468年)3月、有房は桃生郡鹿又村梅木(鹿又)を在所としていた仙台藩大番頭・瀬上主膳(せのうえしゅんぜん)に対して、配下の士のうち困窮している者のために金壹万両の献金を申し出ました。当時、仙台藩は奥羽鎮撫総督軍から会津藩追討の勅命を受けたものの、藩財政が苦しく、軍資金の捻出が困難な状況にあり、また各藩士も同様でした。そのような状況を受け、有房は「先祖代より心懸」に従い、献金を申し出たのです。

また、有房は自ら戦地に出兵することを志願しました。仙台藩では40歳を過ぎた者は後方勤務に従軍する慣例がありましたが、強い第一線で戦闘に参加することを希望したのは齋藤家の立場が影響しているものと思われま

た。口の戦いで腹部貫通の銃創を負い、慶応4年5月2日戦死しました。享年42歳のことでした。

※参考文献
『齋藤善右衛門翁傳』財団法人齋藤報恩会、1928年
『齋藤善次右衛門有房傳』財団法人齋藤報恩会、1978年



瀬上主膳宛齋藤有房書状



總やみも昔も積み重ね

櫻井 芳江さん 100歳(蛇田)

櫻井芳江さんは大正8年2月21日、旧鳴瀬町で今宮廣治さん、せんさんの7男6女の長女として誕生しました。生家は当時、地元有数の商家で、芳江さんは東京の女学校で和裁や洋裁などを学びました。

家族は「何事にも興味を持つことが長寿につながった」と言います。平成24年に蛇田地区の特別養護老人ホームに入所。家族や職員が呼び掛けると、いつも穏やかな顔で返事をするなどしてくるそうです。6人の孫、5人のひ孫がおり、成長を願う静かな日々を送っています。



62歳で仕事に区切りを付け、その後は趣味や地域のさまざまな活動に参加。旅行好きで、各地を訪ね歩くのを楽しみに過ごしていました。明るい性格と面倒見の良さから、多くの友人に恵まれました。



<石巻市食育推進キャラクター!いしのまき隊結成!!>

平成31年3月に第3期食育推進計画を策定しました。計画の基本理念である「石巻の『すこやかな体と心を育む豊かな食』を未来へつなごう」の実現に向けてよりいっそう食育を推進していくために、地場食材の「さば」「こねぎ」「トマト」をイメージしたキャラクター「いしのまき隊」を市で作りました。3人のいしのまき隊と一緒に子どもや若い世代を中心とした食育の推進に取り組んでいきます。

健康推進課(内線2428)

2/19 桃生 果物でひな人形、菓子作り

どんぐり子育て広場



桃生子育て支援センター・キッズホームで「おたのしみ会」が2月19日にありました。16組の親子や祖父母らが参加、桃生地区で子育てのサポートをしている「どんぐりの会」(加藤伸子会長、会員15人)と一緒に、イチゴとバナナを使ったひな人形・菓子作りなどをしました。同会は「大きなかぶ」の寸劇を披露したり、乳幼児全員と合奏したりと、楽しい時間を共有しました。

3/1 河北 火災のない安全・安心な街に

幼児も防火パレード

春の全国火災予防運動の一環として3月1日に、河北総合支所周辺で防火パレードが行われました。出発式で、一日署長の委嘱を受けた三陸化成の飯田智美さん(37)が地域の皆さんに「火災のない安全で安心な街にしましょう」と訴えました。その後、消防音楽隊と河北幼稚園、飯野川保育所の園児、消防団員らが町内を練り歩き、火災のない街への決意を新たにしました。



3/10 石巻 あこがれの消防車 搭乗体験

防災フェア

「防災フェア2019」が3月10日、ホームック石巻蛇田店駐車場で開かれました。消火器の使い方を学ぶコーナーや、消防車などの体験乗車、防災用品の展示、最新のバーチャル・リアリティ(VR)による火災避難体験などがあり、多くの親子連れなどでにぎわい、楽しみながら防災の大切さを学んでいました。



2/22 河南 かさまつ太鼓 伝統の引き継ぎ

6年生から下級生へ

前谷地小学校で2月22日、「かさまつ太鼓」の引き継ぎ式がありました。伝統の太鼓「龍ノ口囃子・龍神の舞」を6年生が堂々と披露。続いて、その演技を目に焼き付けた5年生と4年生が引き継ぐ決意を持って舞い、演奏しました。会場の体育館には保護者も多数駆け付け、子どもたちの心を込めた伝統の受け渡しに拍手を送っていました。



2/9 雄勝 優雅なピアノ、力強いテノール

音楽家2人がリサイタル

台湾のピアニスト林品安さんとテノール歌手大田翔さんのリサイタルが2月9日、雄勝小・中学校で開かれました。優雅なピアノの音色と力強い歌声で日本の名曲やクラシックを披露し、聴衆を魅了しました。雄勝を舞台にした史劇「石に刻んだ赤心 鹿児島と宮城をむすぶ秘録」を手掛けた仙台の劇作家が2人を招待しました。



2/19 牡鹿 音楽に乗って体で表現

リトミック子育てセミナー

音楽で体を動かし表現する「リトミック」の子育てセミナーが2月19日、牡鹿保健福祉センター清優館で行われ、牡鹿地区保育所の園児とその保護者ら約40人が参加しました。電子オルガンの音楽に合わせて走ったり歩いたりするゲームや「ディズニープリンセスメドレー」に合わせて手拍子をするレッスンなどを行い、参加した親子は笑顔で楽しんでいました。



2/10 北上 特産ワカメのしゃぶしゃぶ

観光物産センター1周年セール

市が十三浜に整備した北上観光物産交流センターの1周年記念イベントが2月10日に開かれました。北上地区の特産品が2割引きで販売されたほか、旬の生ワカメの詰め放題には長い列ができ、用意した100*が30分ほどで完売しました。生ワカメしゃぶしゃぶや「わかめうどん」、玄米ご飯などの試食コーナーもあり、訪れた人たちは北上の味覚と買い物を楽しんでいました。

